

第1回 AI-C一般複合容器分科会 議事録

I. 日 時：平成21年9月3日(木) 10:00~12:00

II. 場 所：東京都港区虎ノ門4-3-13 神谷町セントラルプレイス11F

III. 出席者(敬称略・順不同)

主 査：川原

副主査：小林

委 員：飯島、池崎、佐藤、實川、藪田、山口、山本

K H K：鈴木(好)、竹花、磯村、稲村、草野、鳥越

陪席者：竹田(株ネリキ)

IV. 議事次第

(1) 委員紹介

(2) 副主査の指名

(3) 規格作成プロセスの説明

(4) アルミニウム合金ライナー・炭素繊維製一般複合容器の技術基準
(KHKS 0121)の改正原案の作成について

V. 配付資料

alc資料1-1 AI-C一般複合容器分科会委員名簿

alc資料1-2 移動容器規格委員会及び規格委員会に係る規程類について

alc資料1-3 技術基準作成基本方針

alc資料1-4 技術基準整備3カ年計画

alc資料1-5 高圧ガス保安協会 規格委員会規程

alc資料1-6 技術基準策定手順書

alc資料1-7 アルミニウム合金ライナー・炭素繊維製一般複合容器の技術基準
(KHKS 0121)の改正について

alc資料1-8 KHKS 0121の改正項目、改正内容及び改正方針(案)

VI. 議事概要

1. 事務局挨拶等

開会挨拶の後、事務局が以下の紹介等を行った。

- ① 全員の出席（規格委員会規程に定める定足数を満足、分科会成立）
- ② 陪席者1名が参加
- ③ 規格委員会規程に基づき、移動容器規格委員会委員長が元首都大学東京教授川原先生を主査に指名

2. 委員紹介及び副主査の指名

alc資料1-1に基づき委員紹介を行った後、川原主査が首都大学准教授小林委員を副主査に指名した。また、同資料は公開となることを報告した。

3. 規格作成プロセスの説明

alc資料1-2からalc資料1-6に基づき、高圧ガス保安協会規格の策定プロセス等について説明を行った。質疑等は以下のとおり。

- ① 分科会の開催頻度、回数等は規程類に定めがあるか。
→ 具体的な規定はないが、本分科会は9月、10月、11月と集中的に実施し基準原案を作成する予定である。

4. アルミニウム合金ライナー・炭素繊維製一般複合容器の技術基準（KHKS 0121）の改正原案の作成について

事務局が同基準改正の主旨、検討体制、スケジュール等を説明した後、今回の改正の概要を説明した。質疑等は以下のとおり。

- ① 炭素繊維関係のJISが廃止されているようであるが新たに何かの規格を採用するのか。
→ KHKS0102で引用したJISは廃止されたが、同JISは統合され他のJIS規格として採用されている。このJISを採用予定である。
- ② ①のJISはISO10618とIDTであるがISOを採用するのか。
→ 検討する。
- ③ alc資料1-8の「応力解析」はライナーのみの評価であると思うがどうか。
→ ライナーのみである。
- ④ alc資料1-8の「常温サイクル試験」の下限圧力は、実際の使用方法を確認し、決定すればよいと考えるが、実際の使用において大気圧まで下げることあるか。
→ 充てん前に一度大気圧としている。下限は現行通り大気圧で良いと考える。
- ⑤ アルミニウム合金関連のJISH4100が採用されていないが採用する必要はないのか。
→ 検討する。
- ⑥ 組試験時の組みの考え方が国内製造と輸入容器で異なっていると聞く。国内外差を無くしてほしい。

→ 検討する。

- ⑦ 基準の規定外として許容傷深さの測定開始位置、FRP容器の廃棄、締め付けトルク等について意見があった。

6. その他

次回委員会は平成21年10月21日14:00、次々回は平成21年11月18日14:00にそれぞれ開始とした。場所は追って連絡。

以上